



お知らせ

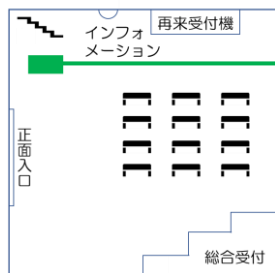
MMWIN事務局からのお知らせです

～石巻圏のさらなる利用活性化を目指して～ 石巻赤十字病院にてブース活動を開始いたしました

2023年5月より、石巻赤十字病院様 正面入口横にMMWIN加入窓口（ブース）を開設いたしました。同病院では地域の基幹病院ということもあり、以前にもブースを開設させていただいておりました。紐付患者数は、延べ5,000名以上と比較的多くの患者さんにご加入いただいております。石巻圏におきましては、ここ数年石巻市立病院様においてブース活動を行っておりますが、この度、石巻赤十字病院様内の眼科や心臓血管外科など、診療科単位のさらなる支援充実を目的として、活動を再開させていただくこととなりました。

石巻市立病院様では一昨年のブース開始から本年5月末まで、2,000名以上の加入実績があったことから、今回の石巻赤十字病院様のブース活動でも、多くの患者さんにご加入いただけるのではないかと期待しております。加入数が増えることにより、石巻圏のみならず近隣医療機関・介護施設においても、診療情報連携にお役に立てよう活動に取り組んでまいります。

MMWIN参加施設の皆さま、特に石巻圏の施設の皆さまにおかれましては、加入された患者さんが『みやぎ医療福祉健康IDカード（MMWINカード）』を提示される機会が増えることが予想されます。その際には適切にご対応いただけますと幸いです。



一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1 丁目15 番19 号

【事務局】

TEL : 022-395-6312 FAX : 022-395-6313

E-mail : office@mmwin.or.jp URL : http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】

TEL : 022-399-6880 E-mail : support@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。

『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。

※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

MMWIN通信は
最新号からバックナンバーまで
当協議会ホームページに掲載しております



©2023 MMWIN

全医療・介護・福祉分野、職種が想いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



MMWIN® 通信
みんなのみやぎネット® NEWS

2023
6.23
vol. 73

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

透析連携を再加速!! JCHO仙台病院 再稼働へ



この度、JCHO仙台病院様とMMWINとの各種データ連携が再稼働する運びとなりました。これにより、透析患者の紹介時において、従来のFAX送信に代わりMMWINネットワークを介した電子的運用が再開となります。

今年3月に実施いたしました「透析連携のためのMMWIN活用Web講座」では、JCHO仙台病院様からお二方にご講演をいただき、入院受入れの際にFAXで受取られている透析情報のフローと、MMWINによる透析連携のフローを比較してご紹介いただきました。通常は、1患者あたり6～8枚程度のFAXのやり取りをされているとお聞きしております。下記（左）の条件を満たした患者さんであれば事前FAXが不要となりますので、紹介元・紹介先双方の業務軽減につながることが期待されます。また、患者さんの入院期間中・退院時の透析情報を、必要に応じてMMWINで確認することが可能になります。さらに、この連携では個人情報漏洩の点からリスク回避の手段となりますし、バックアップデータを活用することで、災害・夜間救急時などの患者受入れ時にもご活用いただけます。

現在、JCHO仙台病院様は透析連携・眼科連携に参加されておりますが、今後は他の医療情報の連携（大腿骨頸部骨折など）にもMMWIN活用の機会を広げていきたいとお話をいただいております。関連する医療機関様におかれましては、運用のご準備をよろしくお願いいたします。

JCHO仙台病院透析室へのFAX不要となる条件

- ① MMWINへの加入
- ② 双方向紐づけされている
- ③ 透析基礎情報がUPされている
- ④ 透析経過表がUPされている

- ・入院時には、これまで通り書類はご持参いただきます
- ・緊急時に備え、基礎情報は定期的（週1回等）なUPが望ましい

透析連携の現状（入院）

- ・入院受入れに係る業務
 - 紹介元の透析施設へのFAX送信の依頼
 - 予定入院では、1週間前まで送信依頼
 - 祝日や連休の場合、器材発注の都合で早めに依頼
 - 事前FAXの有無の確認、無い場合は電話連絡し依頼
- ・入院時の透析情報の確認（予約入院）
 - 紹介元から1週間前に透析基礎情報（透析条件）
 - 透析経過記録等をFAXで受取る
 - 1患者につき、6～8枚程度印刷
 - 入院時に持参した原本と確認

※JCHO仙台病院様提供：「透析連携のためのMMWIN活用Web講座」講演資料より抜粋



MMWIN通信vol.72に透析セミナーの記事を掲載しております。

こちらも併せてご参照下さい。

現在、慢性腎臓病（CKD）は成人の8人に1人が罹患していると考えられ、新たな国民病の1つとされています。初期症状がほとんどなく、症状を自覚した時には既に進行していることが多いことから、透析導入や心血管疾患発症のリスクを抑えるためには、専門医による早期介入が非常に有効となります。

大崎・栗原医療圏の潜在的なCKD患者の抽出も含めた取り組みとして、現在、大崎市民病院 杉浦 章先生のご指導の下、MMWINを利用した病病・病診連携が始まっています。

POINT 1

紹介前の相互情報共有



検査値などのデータをリアルタイム共有
逆紹介時にも安心

POINT 2

専門医による所見の共有・指導



専門医とのカンファレンス

栗原中央病院 木田 真美先生に連携のメリットを伺いました

CKDには特效薬というものがないので、いつも迷いや不安を抱えて治療にあたっていました。『このくらいの数値になったら（大崎市民病院に）送ろう』と思っていたけど、いざ紹介しようとするとき患者さんが嫌がることもあり、説得も難しいのです。そんな時、杉浦先生から連携のお話があり、光を見たような思いでした。

杉浦先生からいただいたアドバイスにより、どういうふうに患者さんに説明すればいいかが分かり、紹介を拒否する患者はいなくなりました。また、私も塩分指導にも興味を持って関わるようになり、見分が広がりました。

ご紹介した後もMMWINで情報を見ることができ安心ですし、何より今まで数回が高かった腎臓内科に、ちょっと相談…というかたちで話ができるのが一番うれしいです。



栗原中央病院 副院長
木田 真美先生



「透析導入患者を一人でも減らしたい」という杉浦先生の思いにお応えできるよう、近隣を中心に関連する医療機関の皆さまに取り組みをご案内し、MMWINによるCKD患者の円滑な情報連携をサポートいたします。

始まります

MMWIN重症心身障害児(者) 連携

MMWINのネットワークを活用し、重症心身障害児（者）の在宅介護記録の一元管理、および支援者間の情報共有・コンサルテーションに役立てようという取り組みが始まりました。当協議会では、「重心連携」と称して、宮城県下の医療機関を受診中の医療的ケア児とご家族が安心できるシームレスな情報連携体制の構築を目指しております。

本連携は、仙台赤十字病院小児外科部長の伊勢 一哉 先生の計画を、MMWIN上で実現することから検討が始まりました。医療のDX化が声高に叫ばれる今日ですが、障害児の支援情報は手書きのノートや連絡票といったアナログな方法での共有がなされていることに、伊勢先生は頭を悩ませていらっしゃいました。

そのような中、宮城県で重心連携の重要な医療機関である仙台エコー医療療育センター様が新たにご参画され、さらに仙台西多賀病院様のご支援を受け、この度スモールスタートでシステムの運用検証が開始されました。

まず初めに行った検証では、模擬患者を利用し、MMWIN上で検査結果、処方や画像情報を参照、その結果をコミュニケーション機能で通知し、関係者間で情報共有するといった内容です。参加された先生方から「容易に正確な情報を取得できた」と好感触な感想を頂きました。



ブース活動（宮城病院）



次に、患者加入促進のため仙台赤十字様を始め国立宮城病院様でもブース設置を行いました。

また、国立宮城病院様で開催された医ケア児保護者会「あすなろの会」に参加させていただき、重心連携のご説明をした上で、患者登録を頂くよう案内し加入促進に取組みました。

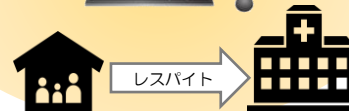
将来展望として、ADL情報等を包括したテンプレートを作り上げることに加え、同ネットワークに賛同される施設を拡大していく予定です。

practical use practical use practical use practical use practical use practical use

活用プラン①
小児から成人への移行期に必要な疾患等の円滑な情報共有



活用プラン②
短期入院時に看護記録などを情報共有



近年の治療法や体制の整備により、小児慢性特定疾病等に罹患した患者が、思春期、成人期を迎えられる時代になっております。移行期にある患者に対応できる移行期医療の情報共有として、MMWIN重心連携が期待できます。

また、患者家族が一時的に看護できない場合の短期入院時には、過去の病歴や通院歴などを入院施設と共有が可能であり、今後は在宅看護記録もMMWIN上で参照出来るような体制も整えてまいります。

重心連携は脳卒中地域連携バスと同様、宮城県循環器病対策推進計画に沿った地域連携の取り組みとなりますので、宮城県とも適宜連携・情報共有を行い、ネットワークの展開を進めてまいります。